

高島及び関崎周辺地域の陸生昆虫



高島船着場

高島の陸生昆虫

高島の昆虫については、1953年に3種のセミが記録されています。今回は真夏に44科92種の生息を確認しました。大方の種は日豊海岸地帯に共通の普通種ですが、いくつかの特徴的な事例に出会えました。

チョウは8種で、アオスジアゲハが最も目につき、タブノキ、シロダモ、ヤブニッケイの茂る島の特徴をよく示しています。また、新鮮なモンキアゲハは土着が考えられます。

ハムシは真夏に12種が見られ、島の自然の豊かさを示していました。キクピアオハム

シは県内の標高の高い地域によく見られる種ですが、低地でほとんど見掛けません。高島での生息は、この虫が標高の高い地域の昆虫でないことを示し、同時に県内低山地で種の多様性の喪失がかなり進行していることを物語っています。砲台跡の池周辺ではヤブヤンマ、オオシオカラトンボ、リスアカネを確認しました。セミはアブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシを再確認しました。しかし、深島や沖黒島など県南の島々や姫島に多産するクマセミは確認できませんでした。これは人為の少ないことを示しています。海辺のチガヤの群落ではトビイロハゴロモによる坪枯れが見られました。本虫は稀に水稻を加害する水稻害虫の予備軍です。キュウシュウクチブトカメムシの採集記録は本県では2例目です。沖黒島で出会ったシモフリクチブトカメムシと共に南方系の種と思われます。地球温暖化の関係からも、県内の採種記録や確認記録をふやして生息地域を確認しておく必要があります。そのほか、調査で確認された代表的な昆虫の写真を載せています。



海浜草地に住むオンブバッタ



キュウシュウクチブトカメムシ



トビイロハゴロモによる坪枯れ寸前のチガヤ



吸汁中のトビイロハゴロモ



海浜で目撃されたホオズキカメムシ



ヤマウルシに吸汁中のアオハハゴロモ



海浜で見られるキオビツチバチ



ヤタケに住むシロヘリカメムシ



砂浜に営巣するキンモウアナバチ



サルナシを食べるキクピアオハムシ